

三里塚・ジェット闘争貫徹「国鉄35万人体制」粉碎!

# 全支部の協力で佐倉支部結成を!

## 第3回支部代表者会議で確認

第3回支部代表者会議は2月1日、13時より動力車会館で開催された。第3回支部代は、この間地道に続けられてきた佐倉、銚子支部結成へ向けた取り組みの経過を総括した。そして当面する取り組みとして、佐倉支部執行部をはじめとする仲間の決起に迎え、全支部の協力をもって動労千葉全体で佐倉支部結成をかちとる方針を決定した。全組合員のみならず、「本部」革マル反動分子とそれに密通した佐倉内一部分子によるウソとデマによる反動労千葉策動を断固として粉碎し、一年余にわたる「本部」革マル反動分子との組織争闘戦に勝利した教訓を生かすきり、いざ佐倉支部結成に向け全力を傾注しよう。

会議は、布施組織部長の座長により進められた。関川委員長あいさつに続いて、西森副委員長から「本部」革マル反動分子との闘いの情勢と佐倉・銚子支部結成に向けた当面の具体的取り組みが提起され、次の通りの取り組みを全体で確認した。

1 「本部」革マル反動分子との闘いの情勢  
 ①、「本部」革マル反動分子の労働組合本来の闘いを放棄し動労千葉破壊攻撃のみに全力をあげてきたが、動労千葉は勝利した。それはなによりも、島田・革マルスパイ分子をはじめとした「7名」を唯一の成果としか語れない。「本部」革マル反動分子の消耗ぶりである。最近では、目黒選挙を政治的に利用して、動労千葉破壊を策すまでに至っている。

②、「本部」革マル反動分子の破産と消耗を塗りかくす為の当局と結託した組織破壊攻撃。具体的には、動労闘争申1号による、動労千葉に対する職場規律の厳正、処分要請―それをうけての政府・当局による12月27日大量不当処分攻撃―12月29日付局報号外による動労千葉への選別的不当介入のよびこみである。

③、以上の情勢下で「佐倉・銚子支部結成」は、動労千葉が組織争闘戦に完全に勝ちきり、動労本来の戦闘的労働運動を再生し、職場と労働条件を維持向上させてゆく為の最大の妨害物である「本部」革マル反動分子の組織介入、破壊策動の息の根を止める闘いである。

- 2 佐倉支部結成へむけた具体的取組
- ①、第一次オルグ 2月4日〜9日
  - ②、第二次オルグ 2月10日以降

佐倉支部結成は正念場を迎えた

動労千葉は、昨年3・30大会で佐倉支部選出代

議員の賛成をえて結成した。その後、動労「本部」の機関無視の組織運営を反面教師としながら支部執行部の意向をつねに尊重しつつ、機関開催、職場集会の開催を要請してきた。

しかし、組合員に真実を知らせず、様々な口実をもって機関を開催せず、方針を提起しないまま、支部結成に動労千葉への結成を妨害してきたのが実態であった。

こうした実態に対する不満、批判が、昨年11月16日支部定期大会での新執行部の確立であり、「組織問題の結着は新執行部に委ねる」との大会決定である。

新執行部は、この大会決定にもとづき「本部」革マル反動分子に密通した反動労千葉一部分子の妨害に屈せず、佐倉支部をまとめるべく努力をしてきた。そして1月8日、執行委員会を開催し動労千葉へ結成する方針を提起し、1月16日〜18日に職場集会を開催し、1月21日から動労千葉への結集を呼びかけた団結署名を開始してきた。その結果、検査、検修の仲間はほぼ完了している。乗務員の仲間については、「佐倉をよくする会」をデッチ上げた一部の諸君による隠然たる対立によりこう着状態にある。しかしこれも、「本部」革マル反動分子と通じた、佐倉内一部分子の反動労千葉策動にのせられたものであり、われわれは、必ず動労千葉に結集することを確信している。こうした経過と現状は、佐倉支部結成の取り組みはいよいよ正念場を迎えた。

われわれは、佐倉支部執行部をはじめとする仲間の決起に迎え、「本部」革マル反動分子の隠湿な妨害を粉碎し、佐倉支部結成へむけ全力を傾注しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!